

## 迷路

枯木がところどころに立つてゐるのが見えるのですが  
土地の広さは計り知ることは出来ません  
風もなく 枯木はゆれることもありません  
明確に互の距離を影によつて示し  
鞭のやうな茶色の細い枝は空に向つてゐます  
空に向つて叫びを いまや……  
進み行くものの道は定められてゐるのかもしれませんが  
さだかならぬ実体は ふくれあがりながら  
空間を突進してゐるのです  
それは逆行して  
もとの道をもどつて来てゐるやうに見えるのですが  
もとの道ではありません すぐ脇を駆け抜けてゐるのです  
ある角度をとつて 上昇しはじめます  
その場所をころがり落ちる岩石  
猛烈な砂ぼこりなのでせうが  
まるで 一粒の砂がころがり落ちるやう  
その流れ落ちる筋は いく筋かに別れ  
傾斜面のとどまるところに 底辺にをさまつてしまふのです  
地形に無限の変化のあることもわかるのですが  
空間は進み行くものをあざ笑ふが如くにもてあそびます  
我等の生涯の時間を重ね合はせてみたとしても  
およぶことなく つかみどころなく  
力強く駆け抜ける無気味なるもの  
もしも 一瞬  
あの 空にさし伸ばされた茶色の鞭にかかはりを持つならば  
火炎は白熱し あるひはもも色の燃焼と黒いけむり  
空に打ちあげる爆発  
思ひもかけぬ激しいものを吹きあげるかもしれません  
屈折をくりかへし 曲りくねり 速度を早め  
棒のやうな一直線の行動  
理性に導かれてゐるのであるのか  
速度までが計られたものか  
はるかな遠望の透明の中に  
なほ駆け抜けるものは ごらんの如く  
さだかならぬ実体は ふくれあがりながら  
狂気の乱脈の突進をつづけてゐるのです  
ところどころに立つてゐる枯木は細い枝をさしのべ  
鞭のやうに細く 針のやうにするどく白く光つて見えます

風もなく 枯木はゆれることもありません  
空間には はりめぐらされたものがあるのせう  
我等はそれを何と名づけたらよいのせうか  
それより以前に なほ 我等のなすべきことは  
無気味なるものに我等自らを重ね合はせることせう  
ひたすらに ふくれあがり  
同一年行動をくりかへしてゐるもの  
彼は自らの終末と 自らの脱出を  
上空に試みてゐるのです  
ああ のたうつものは  
行動をとどめることをいたしません